大好き かたびら

横浜市立帷子小学校
学校だより№.４　７月号
令和２年６月30日
横浜市保土ケ谷区
川辺町65-１
TEL ０４５-３３５-５８９６

http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/katabira

「われらは通う 朝ゆうに」

副校長　阿山　美香

帷子小学校の朝は、一年生の教室から聞こえてくる「校歌」から始まります。授業再開から１か月、54 人の新入生は「帷子小学校校歌」が歌えるようになりました。マスクをして歌っているとは思えないはっきりとした弾んだ歌声で、すがすがしい一日がスタートします。

また、今、帷子小学校では、それぞれの学年の子どもたちが植物の栽培や観察学習に取り組んでいます。今までに見たことの無い球根を畑に植え、わくわくしているのは５組、６組の子どもたちです。観察カードからは、「とにかくふしぎ。ちゃいろでまんなかはあかむらさき。あなみたいのがあるけど、なんかいみあるのかな。」と、見て触って感じたことや、結果が分からないからこその興味が伺えます。さて何が育つでのでしょうか。

「めがでたよ。」と、植木鉢を見せに来るのは一年生です。種を植えたり水やりをしたりしながら「うれしいな。さわったらふわふわだった。がんばってはやくさいてね。」と、体験を通して自分のあさがおが成長することへの喜びや楽しみを表現しています。

夏野菜の収穫を心待ちにしているのは二年生。植木鉢からはみ出すほどに成長しているナスやミニトマトの観察シートには、「大きさは、手ぐらいです。さわってみたら、つるつるでした。３こありました。」「大きさは、ビー玉のちょっと大きいバージョンです。においは、赤いトマトのにおいがしました。」ナスの手触りや、まだ青いのに赤いトマトのにおいがすることへの驚きや大きく育っていることへの嬉しさがぎっしりと記録されています。

三年生は、種類の異なる植物を観察しています。「マリーゴールドは、くきが赤い。細長くてほかの植物よりも葉が小さくてざらざらしている。」「ヒマワリのめより、マリーゴールドとホウセンカのめの方が小さい。たねはすごいと思いました。」と、子どもたちは、比べることでそれぞれの違いを見出したり植物の体のつくりの共通点に気付いたりしています。植物の力に関心をもつ姿も見られます。

四年生はひょうたんの観察です。「葉脈がバンザーイの形になっていた。葉の形がヘチマの葉ににていた。」「たね→子葉→葉がはえてきて→でかくなった！子葉は葉と違ってつるつるしている。花がさいてかれてしまうけど、かれてしまう間にいっぱいさいてほしい。」成長の変化を整理したりこれまでの観察や経験とつなげて予想を立てたりしながら視点をもって取り組んでいます。これからの変化からどんなことに気付いていくのかが楽しみなひょうたんの学習です。

五年生は、インゲンマメの育ちを調べています。これまでの経験から予想や仮説を立て、植物の発芽の実験に取り組みました。結果を基に、植物の成長に関わる条件について学習は継続していきます。さらに子どもたちは、理科の学習を国語の俳句につなぎました。

「インゲンマメ　風に負けるな　元気だせ」

実験して、発芽にたどり着いたインゲンマメだからこその一句です。

六年生は、ホウセンカを使い植物の体のつくりと働きを追究しています。色水を吸い上げたホウセンカの根や茎、葉、花びらを観察したり切ったりしたことから結果を整理し、「植物には水の通り道がある。根から吸い上げられた水は、茎→葉のすみずみまで行く。だから、しおれた花に水をやると葉の先まで元気になる。」と考察していました。知識や経験と実験の結果をつないで、新しい学びにしていくことを楽しむ姿が理科室で見られています。

日々、子どもたちは学んでいます。友達と一緒だからこそ、気付いたり楽しんだりすることもたくさんあるのでしょう。そして、下校時、校庭から歌声が聞こえて来ます。

「♪ 帷子川の岸の道　流れる雲をあおぐ目に　清く大きな夢やどし　われらは通う朝ゆうに ♪」

覚えたての校歌を友達と一緒に口ずさみながら帰る一年生です。また明日も、帷子小は子どもたちの確かな学び、そして、豊かな心を育んでいきます。今後とも引き続き、子どもたちへの励ましと、帷子小学校の教育活動へのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。